

令和3年度の学校教育目標等について

京都市立松原中学校

校是

—自律・友愛・創造—

自律：自ら学ぶ力、（学ぶことの楽しさや発見、自己を変革し続けることができる力）律する力（ひととのかかわりを成長の糧とし、自己や他者にとってより良い選択・判断ができることができる力）を鍛える。

友愛：責任ある行動をとり、学び合い、高め合う「なかまづくり」ができる生徒に育てる。

創造：自らの「夢の実現」に向けて、何事にもチャレンジする創造性豊かな生徒の育成を目指す。

R3年度学校教育目標

「自ら考え行動し、仲間と未来を切り拓く生徒の育成」

目指す生徒像

- しっかり考え、行動できる生徒
- 自分の考えを相手に伝えることができる生徒
- 目標を達成するために、仲間と協働できる生徒

令和3年度 学校経営方針

- 1 「生きる力」を伸長し、「自信と誇りにみちた生徒」を育成していく中で、生徒一人ひとりが持てる力を発揮し、各自の自己評価を高めるために創意工夫ある教育活動を実践する。(輝く松原づくり)
- 2 協同的な学びを通して、すべての生徒の学ぶ権利を実現するとともに、道德教育とキャリア教育が充実した学校をつくる。
- 3 生徒の集団づくりを図るとともに、人権文化が定着した学校づくりを推進する。
- 4 他校種間の連携や地域との交流を重視し、地域や保護者に開かれた学校とし、その中で生徒主体の教育活動を実践する学校とする。
- 5 学校教育目標を理解し、共有し、共にチーム（組織）の一員として実践する教職員集団をつくる。

－ 重点方針 －

1. 学習指導…【生徒への学びを保障するために】

- (1) 生徒が探究心を向上させる学びの授業を実践する。
- (2) 「特別の教科 道徳」も含め、すべての教科に言語活動と協同を意識した授業を実施し、図書館を活用した授業に取り組む。
- (3) 体験的な学習活動を充実させるとともに、「21世紀型能力」の向上を意識した授業改善に取り組む。
- (4) 地域と連携した伝統文化教育を充実させ、全教育活動で取り組む。
- (5) 学習確認プログラム等において、本校の平均点の向上を図る。
- (6) 信頼される総括評価（学期や単元の最後に行う評価）と形成的評価（学期や単元の途中で出される評価）を充実させる。

2. 生徒指導…【心の通った指導とよりよい校風づくりをめざすために】

★ 生徒に自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係を育成させる。

- (1) 生徒理解を深め、ていねいな個別対応（能力に差があるのが当たり前。障害を越える能力をつける。障害を排除するのがいい生徒指導ではない。）実践するとともに、積極的な生徒指導を実現していく。
- (2) いごこちのよい学級づくりをし、よりよい集団とするために学級経営力を向上させていく。
- (3) 生徒会活動や部活動の充実を通して、生徒の健全育成を図る。
- (4) 教育相談を充実させ、スクールカウンセラー等との連携を強化する。
- (5) 「生徒指導ハンドブック」の活用と生徒指導等に関する情報の共有化を徹底する。

3. 人権教育…【友愛・協働を実現できる能力を育むために】

- (1) 人権文化の定着を図り，参加体験型人権教育を推進する。
- (2) 特別支援教育やインクルーシブ教育（障害のある人もない人も共に学ぶ こと）に対する理解を深め，指導力を向上させる。
- (3) 性教育や情報モラルについての指導の工夫改善に努めていく。
- (4) 総合・道徳・特活を充実させ，人格教育を推進していく。

4. 地域連携等…【さらなる学校力の向上のために】

- (1) 学校運営協議会の活性化を図るとともに，小中一貫教育をはじめ，他校種間との連携を発展させる。
- (2) 伝統文化教育等において，地域の人材活用を推進する。
- (3) 地域でのボランティア活動を進め，生徒の自己有用感を高めていく。
- (4) 学校評価をより充実したものとしていく。
- (5) 「チーム学校」という意識を常にもち，学校の組織力を向上させていく。

5. 教職員研修…【求められる教師（教育に対する強い情熱・豊かな人間性・高度な専門的な知識を

もつ）となるために】

- (1) 校内研修を充実させるとともに，OJD（OJT ベテランが若手を指導。OJD は学校経営を共に考えていくこと）を推進していく。
- (2) 小中連携した研修を活性化させる。
- (3) 若手・中堅教員の研修を充実させていく。
- (4) 校外研修会へ積極的に参加していく。